

## 令和2(2020)年度 社会福祉法人 神戸育成会 事業報告

### 【総括】

猛威を振るった「新型コロナウイルス感染症」により、年度内の全ての行事を中止・利用控え・各種会議・研修会の中止・感染予防対策など大きな影響がありました。コロナ禍の中でもきることとして、社会福祉法人神戸育成会は、法人理念及び障害者総合支援法に基づき、制度の動向を踏まえ、利用者の福祉と社会的自立を支援するために事業を行いました。2年目になる「共生型サービス」については、生活介護の利用者との共生、介護保険事業への移行、介護スキルの取得など課題が見えつつあるため、わずかな機会でのオンライン研修を行いました。

社会福祉法人として、社会福祉法人制度改革にもある、透明性・公平性・公益性を重視し、地域に必要とされる存在であることを目指し、情報の公開・事業所内で利用者・家族と現金でやり取りしないなどの事案もできる範囲で見直し取り組みました。

#### <基本方針>

##### (事業所の経営)

中長期的に健全な経営が営めるように、収支を十分に検討して行います。収益が上がるように利用者を増やすための行動を継続しました。

##### (組織体系の確立)

組織の基盤としてリーダーシップが求められるため、法人が求める人財としてリーダーシップがとれOJTができる人財の育成、スタッフ間でコミュニケーションを取り、チームワークを図り、連携して出来る範囲で業務にあたりました。事業所ごとの事業計画を立て出来ることから実践を行いました。

##### (拠点事業所の経営)

就労継続支援B型をみくら・住吉に、生活介護・通所介護事業「共生型」の拠点をみくらつついのみやに置きま運営しました。要介護(4)1名、(2)2名、要介護(1)1名の計4名にご利用いただきました。報酬は障害福祉サービスの時よりも減っていますが、共生型サービスを行うことで、4名は確保できたことが現実です。

各拠点にはリーダーシップをとれる人財の育成、拠点ごとの事業計画を法人の事業計画とリンクして事業を行えるように努めました。指導不足のためリーダーシップをとれるよに指導することは困難でした。

##### (利用者の支援)

課題がある利用者への支援について対応していく、専門性の向上が必要なため、職場内・外への参加、他施設への見学・実習など積極的に行う予定でしたが、コロナの影響でほとんどできませんでした。

個別支援計画を立てるため、利用者の状態の理解を深めるためにアセスメントを電話で聴き取り、意思決定支援・合理的配慮(障害者差別解消法・高齢者虐待防止法)、地域共生社会、障害者の権利擁護に関する事項を重点課題とし、サービスの向上を行う予定で一部は取り組みましたが、コロナの影響でできないことも多くありました。

##### (新規利用者の獲得)

支援学校や相談事業所などへの「営業」並びに、児童との交流、在宅者などの見学・体験利用も、コロナの影響で半減しました。

##### (人財確保・育成)

スタッフの知識の向上・スキルアップのためのOJT、OFJTを予定死体研修が中止になるなど、一部オンライン研修を除いてはコロナの影響でできませんでした。

パートから嘱託、嘱託から正規へ登用する転換制度については経営状況を鑑みて検討しましたが、経営状況を鑑み見送りました。

#### <具体的な取り組み>

計画に掲げたことについて、工程表を作成し可能な限り目標を数値化し分かりやすく評価しやすいように設定しましたが、コロナの影響でできできませんでした。

拠点事業の運営についてもマネジメントが重要になるため拠点と法人が協力して運営を行いました。課題も残りましたが、一定の成果はありました。次年度に向け、職員の現状や課題整理を行い、シンプルに実現可能な設定が必要だと認識しました。

令和2(2020)年度 社会福祉法人 神戸育成会 事業報告

【工程表】

令和2年度 法人本部事業報告

達成度 ×0～25%、△26～50%、○51～75%、◎76～100%  
 ※職員・パートを「スタッフ」、サービス管理責任者を「サビ管」で表記

項目	課題	目標	達成度	評価の理由	課題	改善策
法人の経営	法人の健全な経営①	拠点ごと・部門の収支が分かりやすい決算書を作成する	△	2019年度決算で作成した帳票と同様	拠点ごと・部門ごとの経費の算出が決まっていない	早期に実施したい
	法人の健全な経営②	半期ごとの決算書を作成する	×	今年度は実施出来ていない	拠点ごと・部門ごとの経費の算出が決まっていない	拠点ごと・部門ごとの経費の算出を早期に決定
	法人の健全な経営③	決算書を基に経営戦略を立て収支が上向くようにする	×	地道に利用者を増やし、収入増を目指す一方で、今後の支出増に備える	建物等、経年劣化で、今後は修繕費が大幅に膨らむことが予測できる	各、テナントに協力をお願いする
	法人の健全な経営④	祝日13日程度を開所する(ただし年度当初の実施はスタッフが整わないため、整い次第開始する)	×	実施できていない	日常業務が通常に行える体制の確保すら難しいため、整うまで保留とした。	まずは安定して通常の体制が組めるようになるまで保留とする。 人財確保のためパート支援員の賞与など給与規定を見直す。
	法人の健全な経営⑤	お盆休みも営業する(営業日2日増)	◎	正規・嘱託職人に6～9月に2日間の特別休暇を支給し、お盆を休業せずに営業できた	特になし。	引き続き取り組んでいきますが、目標達成しており、定着しているため、計画から削除する。

令和2(2020)年度 社会福祉法人 神戸育成会 事業報告

項目	課題	目標	達成度	評価の理由	課題	改善策
法人の経営	★法人の健全な経営 ⑥	魅力ある法人・事業所になるために、『うり』を作る	△	うりを作ることはできなかった。 PRの一環としてホームページにPRの掲載を行った	現状取り組むことが難しいと判断。 ホームページにはささやかながらPRをアップできたことを今後につなげる。	ホームページを更新するなど、出来ることから取り組む。
	★法人の健全な経営 ⑦	新規利用者を獲得する	△	コロナの影響で支援学校や相談事業所などへの「営業」並びに、児童との交流はできなかったが、可能な限り見学・実習を受け入れた。	コロナの影響が続くことを想定した営業活動の実施。	支援学校などに向かないで出来る書面やパンフレットなどを活用してPRしていく。
意思決定支援	意思決定支援の理解	意思決定支援を理解し支援に活かす	×	9月の全体研修で意思決定支援・合理的配慮をテーマとし、10月に意識調査を行う計画であったが出来なかった	コロナの影響で研修会が出来ない想定が必要	リモートやネットでの動画配信などで参加できることに参加する
合理的配慮	合理的配慮の理解	合理的配慮を理解し支援に活かす	×			

令和2(2020)年度 社会福祉法人 神戸育成会 事業報告

項目	課題	目標	達成度	評価の理由	課題	改善策
★個別支援計画	①アセスメントの充実 ②フェイスシートの更新 ③モニタリング会議の実施	2～3月のモニタリングでアセスメントを取る	○	事業所ごとの報告にもあるように、いい定程度は行えたため	ご家族の高齢化にたいしてオンラインや電話でやり取りすることへの限界	引き続き事業所ごとの課題を踏まえ、事業所ごとに計画を立て取り組む
★サービスの向上	提供しているサービスの見直し	魅力ある事業所を目指し、新しいことにチャレンジする (例)生活介護での生産活動、就Bでのカリキュラム化など	×	新しいことにチャレンジできていない	現状維持で精一杯が実態	現場と話し合い、出来ることを見つけて取り組む
PR	未実施なため	コロナウィルス感染症のできる営業活動や方法を検討して実行する 引き続き体験利用や見学を受け、利用につながるように対応していく	△	PR活動出来なかった	コロナの影響が続くことを想定した営業活動の実施。	支援学校などに出向かないで出来る書面やパンフレットなどを活用してPRしていく。
ホームページ リーフレット	HPのトピックスに拠点ごとのPRを掲載	コロナ禍で行事の実施ができるかも不明。	○	拠点ごとのPRも含め、「コロナ禍だからこそ」をテーマにアップする。	ホームページ・リーフレットの活用と更新	ホームページとリンクし利用者・家族向けの内容を伝えます。

令和2(2020)年度 社会福祉法人 神戸育成会 事業報告

項目	課題	目標	達成度	評価の理由	課題	改善策
スキルアップ・専門性の向上	コロナ禍で全体会議(研修)ができていない	次年度もコロナ禍で実施が難しい	△	ユーチューブ動画と嘱託委からの書籍課題のみの実施だった	コロナの影響を考えた参加方法が必要	一度に全員ではなく、数回に分けてリモート研修を行う
スキルアップ・専門性の向上	全体会議のあり方	法人が必要とする人財像を研修内容に盛り込む	×	コロナの影響で未実施のため	コロナの影響を考えた参加方法が必要	一度に全員ではなく、数回に分けてリモート研修を行う
人財確保	人財確保が困難	ボランティアを積極的に受け入れる 法人の魅力を発信する	△	緊急事態宣言解除後にボランティア活動を再開したが、新規には受け入れがなかった	ボランティアの受け入れと人財確保について見直す必要がある	法人の健全な経営④と同様、人財確保のためパート支援員の賞与など給与規定を見直す。
★チームワーク	スタッフ間のコミュニケーションが取れているのか、と家族から不安の声がある	スタッフ間でコミュニケーションをとり、家族会などからコミュニケーションが取れるようになったと評価される	○	事業所によって、◎や△と評価は分かれるが、意識しての取り組みは一定の評価と考えられる	事業所ごとに課題は異なるが、課題整理して出来ることに取り組んでいくことが重要	事業所ごとに立てた目標を出来ることから実行していく
★行事	予算化・振り返り・評価できていない	予算化・振り返り・評価をする	×	実施出来ていない また、代替案の提案もできなかった	コロナの状況次第ではあるが、代替案の検討も行う必要がある	各行事担当者が感染予防対策を考案。 実施可能か否かを判断して決定する。
権利擁護①	苦情解決・虐待防止委員会	開催月を半期に1度、5月・11月に実施する	×	コロナの影響で未実施 11月に委員長に現況報告のみ実施	次年度もコロナ禍で実施が難しい	感染予防対策を行い、年1回でも実施する。

令和2(2020)年度 社会福祉法人 神戸育成会 事業報告

項目	課題	目標	達成度	評価の理由	課題	改善策
権利擁護②	成年後見制度・虐待防止法などの障害者の権利擁護に関する理解	成年後見制度・虐待防止法などの理解を深めるための研修会を年に1回開催する	△	年度当初に「高齢者向け虐待防止」の動画を見て研修報告書の提出をした	障がい者虐待について取り組めていない 次年度もコロナ禍で実施が難しい	感染予防対策を行い、年1回でも実施する。
権利擁護③	共生型サービスを開始するに当たり、高齢者虐待防止について理解	高齢者虐待防止の意識を高める	○	年度当初に「高齢者向け虐待防止」の動画を見て研修報告書の提出をした	次年度もコロナ禍で実施が難しい	一度に全員ではなく、数回に分けてリモート研修を行う
転換制度	前年度までと同様に経営状況を鑑みて実施は難しい	経営状況を鑑み判断する	×	前年度までと同様に経営状況を鑑みて実施は難しい	経営状況を鑑みて検討していく	次年度から一旦計画から外し、保留とする。
★労働	休憩が充分にとれていない	休憩が不十分な事業所は少しでも取る	△	4分の3の事業所が△と評価	事業所によって状態が異なり、課題も異なっている	事業所ごとに立てた目標を出来ることから実行していく
収益事業	法人の経営状況が厳しい中、育成会会館の経年劣化による補修費が必要になってきている	逐次補修する 補修費用を算出する	×	会館のテナント様に協力は得ているが、補修工事を行っていない LED照明のみ12月に交換(リース)	①エアコン取替、②非常灯取替、③EV、自動ドアの消耗部品の交換など	優先順位を決め補修を行っていく テナント様にも協力をお願いする
嘱託医健康相談 健康管理	嘱託医のさらなる活用	嘱託医に利用者・家族に加え、スタッフの相談や研修会の講師やカンファレンスの実施としても活用する	△	コロナの影響で計画通りには実施できていない	次年度もコロナ禍で通常通りにはできないことが見込まれる	感染予防対策を行い、実施する。 職員の相談に乗ってもらうことも設ける。

令和2(2020)年度 社会福祉法人 神戸育成会 事業報告

項目	課題	目標	達成度	評価の理由	課題	改善策
書類	継続した棚卸し	棚卸しする日を決めて実行する	×	棚卸しする日を決めていない	毎年取り組む必要がなければ、3年に一度など期間を設定する	前回、2019年に行ったので、次回2022年の3～5月頃に行う。
地域貢献 地域交流	充分できていない	求められる地域貢献を行う	×	対外的な交流が図れていない	コロナが落ち着くまでは様子を見る	無理な設定は行わず、コロナ禍の状況を様子見て行う。
★家族	家族と法人とのコミュニケーション	家族と支援員のコミュニケーションを深める	×	家族会も出来ない。面談も電話と書面で行った。	コロナの影響を想定したコミュニケーションのはかり方が必要	電話の回数を増やすなどしてコミュニケーションを図る。
健康管理	1日実施の継続	1日で実施する	△	利用者分は中止した 職員のみ10月に実施予定	次年度もコロナの影響があることを事前に想定しておく必要がある	コロナの感染拡大防止を講じて実施できるか検討して判断する。
避難訓練	テナント全体できていない	テナント全員参加が参加する	○	テナント全員は参加できていないが、参加者は増えている	引き続き働きかける	コロナウイルス感染症の拡大防止対策を講じながら実施する。